

1) 幅広い治水対策案の具体的提案

山は緑のダム。治水対策には、まず「悪魔」に山を健康な山にする。そのために山の所有者に山の管理を義務づける制度をつくることを提案します。

国交省は前身が建設省であったためか、問題解決には、モノを造って解決することに固執しているように思えます。治水を考えるには農水省、林野庁、環境省などと共に、日本をどういう姿にするのかを考えてから決めていたんじゃない。

私たちの生活は大雨が降れば降ったで、又その逆に、雨が少なければ少なくて影響を受けます。このことと山は大いに関係しています。ですから、山は公共性の高いものです。

しかし、山の管理の義務がないので山の所有者の考え、気持ち任せになっており、今は木材価格の低迷などの理由から多くの山はほったらかしの状態です。

そこで、車の所有者に車の点検が義務付けられていするように、山の所有者に山の管理・手入れを義務づける制度があつた方がいいと思います。そうすれば、健康な山が保たれ、治水力・保水力が保たれ、国民生活がより安心なものになります。

① [redacted] ② [redacted] ③ [redacted] ④主婦 58才 女。

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 御中

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

① 氏名(フリガナ)	[REDACTED]
② 住所	[REDACTED]
③ 電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④⑤⑥	団体(NGO)であるため、記入しません。
⑦ 意見	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>武庫川は基準点甲武橋より下流は兩岸とも堤防が高く天井川の形状であり、超過洪水発生の時破堤すれば甚大な被害が発生する。従って堤防の質的強化が重要な努力目標と考える。計画高水位より上の堤防天端高までの範囲も矢筈やコンクリート等で補強し、越水にも強靱な耐久力のある堤防とすることが必要。又、武庫川流域の六甲山系花崗岩質からの土砂生産が多く殺働に堆砂が進行しやすい。現在下流部に多く設置されている床止工に付属している落差工の上流側は堆砂量が多く河床の上昇が進行している。又こうした堰の存在は魚など回遊魚の遡上も阻害している。河口より2.5kmにある潮止堰はその効力が失われているので撤去し、汽水域の拡大と土砂の堆積を防ぐべきである。</p> <p>又工案で改草された武庫川ダムは環境、景観に与える悪影響が大きいため建設せず、代わりに既設千疋ダム(利水専用)を洪水調節可能なダムに改造することを提案する。千疋ダムは神戸市の管理となっており、関連利水業者との調整等問題はあるが、今後策定される整備計画で検討に値する重要なテーマと考える。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>新規ダムを建設せず、既設ダムの転用を考える(上述)。</p> <p>武田尾溪谷上流部に遊水池の設置を検討する。武庫川上流域は日本でも有数のゴルフ場密集地である。不採算のゴルフ場は出来るだけ整理し、もとの森林に復活させるよう誘導策をとるべきである。又上流域では木材価格低迷のため、森林の管理が十分でない地域が多い。兵庫県が県民全部に課税している緑税を有効に活用して水源地帯の保水効果を高めるように更なる検討を進めるべきである。</p> <p style="text-align: right;">(以上約700字)</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 御中

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	60才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>〔要 旨〕</p> <p>①現行程度の治水目標安全度は維持すべきである。  ②既に治水対策の手法はハード、ソフトともに出尽くしている。  ③根本的な治水のためには、河道整備やダム等の洪水調節施設の整備・有効利用に中心を置かざるを得ない。</p> <p>〔本 文〕</p> <p>既に治水対策の手法そのものはハード、ソフトともに出尽くしており、これよりほかに新しい手法は考えられない。問題は、それぞれの施策をどう組み合わせるかである。</p> <p>施策の中には、河道整備やダム等の洪水調節施設の整備・有効利用のように、計画に従って一定期間に確実な効果が発現できるものと、災害時の被害軽減のための避難誘導策や流出抑制のための防災調整池の建設のように治水計画にはのってこないものがある。</p> <p>もちろん後者の施策も並行して進められるべきである。しかし、ソフト施策については、これにより河道整備やダム等の治水施設建設の規模を格段に縮小できるかのような期待をかける向きもあるが、ソフト施策は、被害軽減策のひとつとして有効であり、今後精度向上の可能性はあるとしても、活用についての啓発や情報提供手段等に限界があり、治水計画に組み込める対策とはなりえない。その他の自衛手段についても同様である。また、森林整備による流出抑制については、既往の森林分についてはすでに流出計算において組み込まれており、大概の流域においては新しい植林の余地はほとんどないために計画的な効果は期待できないそうにない。</p> <p>その一方で、治水安全度を下げるとか氾濫を容認するというような考え方もある。しかし、行政が国民の身体や財産の安全に関する施策を考える時には、「国民誰しも『せめて自分は洪水に遭うことがないように。そして子や孫の時代にも洪水が起こらないように』と願うのが普通ではなからうか」というような、国民の基本的な願望や心理を大切に考えて決めることが第一ではないかと考える。昨今、他の先進諸国との対比が判断材料として使われるが、治水安全度の妥当性については、国民一人当たりの「洪水発生確率が一定以下の可住地面積」を先進国と比較してみるとよいと思う。可住地の条件には平地というだけでなく、水や気温も関わるが、それでも日本における国民一人当</p>

たりの可住地面積は、たとえ洪水の危険性を無くしたとしても、他の先進諸国より相当に小さいはずである。1億2千万人余の国民は無理をしてでも氾濫原に住まざるを得ないわけであるが、水害に見舞われて逃げ惑うような事態がたびたび発生するようでは先進国とはいえないであろう。

これに対して、「流域の住民がよいというなら治水安全度を低くしてもよいではないか」という考え方がある。流域内だけでことが完結するならそれも成立つかも知れないが、ひとたび洪水に見舞われると国家規模での復旧支援が必要になる。治水規模を下げることにそれに対する責任が伴うことを忘れるべきではない。

また、可住地面積の中には、国民が生きて行くために必要な作物を得るための田畑も含まれる。人口爆発による食糧危機に備えて諸国が海外にまで耕作地を求めているような状況の中で、水害の危険に曝したままでよい国土は日本にはないはずである。「農地は10年に1度くらい水に使ってもよいではないか」という考え方があるが、10年に1度水に浸かる農地で高い耕作意欲を維持できるとは思えない。農家が冠水補償を待つようでは、食料危機の可能性は高まるばかりである。

まとめると、現行程度の目標治水安全度は必要であり、しかも、計画にのっとり根本的な治水のためには、河道整備やダム等の洪水調節施設の整備・有効利用に中心を置かざるを得ないということになる。そして、このように選択肢が限られる中で、さらに河道拡幅かダム建設かしかない場合に、どちらを選択するかが問題なる。選択の際の評価軸についての考えは次項で述べる。

## 2) 新たな評価軸の具体的提案について

### 〔要 旨〕

- ①「どういうケースならダム建設を容認できるか」という『基準』を明確に示す必要がある。
- ②環境についての評価は環境影響評価法で考えるべき。
- ③水没地の地権者への負担について考える際には、河道拡幅案の関係者の負担との比較をすべき。
- ④ダムの効果による判断について、公共事業の必要性和優先順位を混同して、効果が比較低位にあるからといって無駄と決め付けてはならない。
- ⑤国民の身体の安全が便益として組み込めない費用便益比は事業の優先順位を決める材料としての利用に止めるべき。

### 〔本 文〕

治水安全度に関する評価軸については前項で述べたとおり観念的なものにならざるを得ない。

次に大きい問題としては、河道拡幅かダム建設かの二者択一しかないような場合である。この場合は、利害関係者が異なり、また環境に対する認識は個人により異なるから、どこかに軸足を置かない限り永久に結論が出るとは思えない。

これについて、「できるだけダムに頼らない」ということであれば、「どういうケースならダム建設を容認できるか」という『基準』を

明確に示す必要がある。

ダム否定論の論拠の一つは環境への影響である。本来、環境影響評価法があるのであるから、法改正をせずにそれ以上の対応を求めるのはおかしいことであるが、国家的に見て同法が不十分だとすれば、ダムについてだけはそれを強化せざるを得ない。この際、「環境か人命か」というような議論の余地がないようにすることが必要である。

もうひとつが、家屋移転等水没者にかかる負担の問題である。堤防拡幅でも移転等が必要になるので、これについては、どちらがより負担が少ないかということで判断をせざるを得ない。この比較は、事業の実現性という観点からも重要である。堤防案の方が何倍も関係者全体の負担が大きいのであれば事業の見通しが立たない。負担の判断についての計算式は、水没地の〇〇の1件分は河道拡幅における□□件分に相当するというようなものになるが、基準は国民の平均的な感覚を基に決めていくしかない。

ダム建設の可否の議論のもうひとつの側面として、個々のダムの治水効果が上がってくる。ここで、ダムの必要性和建設の優先順位とを混同して、効果が一定規模に満たないからそのダムは“無駄”だというような判断をしないように注意すべきである。狭く貴重な国土を考えたときに、現行程度の治水安全度を確保するためのパーツのひとつである事業に無駄なものはないはずである。その一方で、優先順位というものは当然あり、これは治水事業の中だけでなく、政策全般の中における優先順位というものもある。優先順位が比較低位にあるからといって“無駄”と決め付けてはならない。

また、費用便益比が1.0未満だと無駄な事業と判断されるようであるが、便益の算定に国民の身体的安全が組み込めない限り、費用便益比で判断するのは問題があると考えられる。費用便益比は事業の優先順位を決める材料としての利用に止めるべきであろう。

(以上)

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	地方公務員
⑤年齢	55歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>河川の治水対策としては、①ダムの建設、②川道の掘削、③引堤、④堤防の嵩上げ、⑤堤防の質的強化、⑥ため池、⑦遊水池等に加えて、⑧既存施設の有効活用、⑨貯留・浸透施設の整備、⑩森林の保全、⑪氾濫原管理、⑫洪水の予測や情報の提供、⑬水防対策など、被害の軽減を図る対策などが考えられます。</p> <p>これらの治水対策を進める上では、維持管理費を含めた流域の整備と、限りある水資源を有効に活用できる多目的ダムとの費用対効果を比較検討した結果、税金を納めている住民(国民)に有益な方を取るべきと考えます。</p> <p>私は、治水対策として一番効果的なのが1. 河川の流量調整が出来、2. 流量の集中管理が出来る「多目的ダム」を建設するのが最善と思います。</p> <p>多目的ダムとして流量調整される水は、国策である農産物の自給率向上につながる農業や、人が生きるために必要な飲み水や生活するために必要な工業用水等にも活用される他、水力発電は地球温暖化としてグローバル的環境問題になっているCO2の削減にも大きく貢献します。</p> <p>勿論ダムの建設に関しては、地質調査を含めたダム堤体の安全を確保するのは当然のことであるし、国が発注する公共事業の事業費、用地・物件補償費等の設計額が適正であるかなどは(更なる)検証が必要と思われれます。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>特に無し</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	64歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川は、洪水ばかりでなく利水・水資源・環境面等を含めた総合的な役割を持って社会に存在している。これらの役割の中での治水対策のあり方を議論してほしい。</li> <li>・今までの治水対策の効果よってある規模までの洪水に対する被害はほとんどなくなってきた反面、堤防によって守られている地域はその規模を超える洪水に見舞われた場合、直接的な被害の外、地域の社会・経済に与える影響は多大なものになる。この様な現状を踏まえ今後の治水対策は、①規模を超える洪水量を低減する対策、②河積を拡大して洪水の流下量を増やす対策、③洪水被害軽減対策 に大別される。</li> <li>①の洪水のピーク部分を低減する対策としては、放流量を制御できるダムや越流堤を備えた遊水地や放水路が考えられる。一方、雨水の貯留・浸透施設は、その保水能力に限界があることから、洪水総量を低減する効果は考えられるもののピーク部分の低減効果については、慎重な検討が必要。</li> <li>②の対策としては、掘削・引堤・堤防嵩上げ等が考えられるが、部分的な河積の拡大は、その下流に悪影響を及ぼすことが考えられるので、慎重な検討が必要。</li> <li>③の対策として、堤防の質的強化等が示されているが、これらの他に宅地等の重要部分を浸水から守る宅地の嵩上げや輪中堤についても検討する必要がある。</li> <li>・洪水の原因が降雨という自然現象である以上完全な治水対策はありえない。この事を前提とすると、その時でも被害を少しでも軽減できる①及び③の対策を今後の治水対策の主体とすべきであろう。特に予測精度の向上と合いまって最適なピークカットが出来る可能性のあるダムの存在は、はずせないのではなかろうか。</li> </ul> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の人に理解しにくい現行の基本高水を安全度の基本としているのに替えて、現状における流下能力を安全度の基本としてはどうか。これによって、治水対策と安全度の向上との関係が理解しやすくなる。</li> </ul>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	50才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>河道堀削、堤防嵩上げ、森林の保全整備など どこも必要とは思いますが、脈川は、多くの川が合流 しており、豪雨の時は川が氾濫の可能性が 高い。下流で生活している住民にとっては、上流に おいて治水対策としてダム建設を望む。</p> <p>現在、野村ダム、鹿野ダムがあるが、同ルート上に あり、川の干渉によっては、長良川域が水害の可能性 が高く、一つのダムと同じである。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>現在、遊水地となっている地域においては、堤防の整備 が順次行なわれてきたと思いますが、地産地消の観点から 農地の確保、景観の確保の為に築堤を小さく し、上流で治水を確保して、中下流により ダム建設を推進します。</p>



(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	52才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1, 000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について 堤防を上げ河床掘削の考え方は、氾濫が増し堤防の 決壊に繋がる恐れがある。堤防の決壊により一気に濁流が 襲来する想定すれば人の命や財産に甚大な被害を招く 安全性の高い治水と目的を達成するにはダムに頼る治水 しかない。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について 早期に且つ安全性の高い治水と効果的に得る案には ダムに頼るしかない。その付帯として堤防の存在は必要。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	51才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>牝川の治水をダムだけで、堤防だけで、せき止めばかりでは、不安である。早急に対策を並べたい。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>牝川の治水の安全性を高めれば、ダムは絶対必要である。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	44才
⑥性別	女
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>肱川の堤防工事は、今までも行なわれているのに、洪水は起きている。治水安全度を早く平等にする為には、ダムによる治水をするべきだと思う。</p> <p>また、ダム問題をずっと振りまわされていた土地の人達の気持ちを考えると、ここに来て見直しというのは、いかがなものかと思う。住民感情の無視にもほどがある。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>国は、国民に平等の安心、安全を施す義務がある。都会が大切で、地方は無視というのは、不愉快である。人の命に差をつけないほしい。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	39歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>③ ダム建設は、洪水を調節し河道への洪水配分流量を低減すると共に、上水道・工業用水の供給や、渇水時における河川の流水の確保等大きな効果を発揮している反面、ダム湖における水質の悪化や事業期間の長期化及びダム建設に伴う環境への影響等負の面も併せ持っている。</p> <p>しかし、今日のダム不用論や悪者扱いは感情的やヒステリック的に論じており、その効果を科学・学術的に正しく検証したものではない。</p> <p>治水対策案の検証にあたっては、引堤や堤防嵩上げ等河道整備のみで対応可能か、また流域に未利用地や資産価値の余り高くない更地の土地が存在し遊水池の設置に地権者の理解が得られるか(地権者の理解が得られない場合の対応策も併せて検証する必要がある)、また地形状及び土地利用形態からダム建設等、上流で洪水流量の調節を行う事が当該河川にとって最良の整備手法であるか等、今回の意見書提案に当たってはあらゆる整備手法の意見募集をすべきで、平面的な捉え方でなく縦断的及び横断的な見地から各河川に即した治水対策案を検証すべきで、最初からダム建設を否定すべきでない。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課  
 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	26
⑥性別	女
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 続けて洪水が来た場合、河床掘削が間に合うのか。</li> <li>○ 住民の意見をとり入れて整備計画が"つくられたにも関わらず、一方的に計画を見直しするとはどういうことか。</li> <li>○ 壊れない堤防を何年かけてつくるつもりなのか。</li> </ul> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 堤防整備がなかなか進んでいないなかで、早期に治水安全度を上げるためにはダムも必要である。</li> <li>○ ダムでなければ達成できない成果もあるだろう。</li> <li>○ 治水対策の検討にあたっては、うかい水利用のこともあわせて考えて将来目標をもてて欲しい。</li> </ul>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	41
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>最近、ゲリラ豪雨などが増えていく。ただどさえ大洲市は水にっかりせすいので、考えらるる全ての対策をとって欲しい。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>全国一律の評価軸を定めるなら、安心程度の評価軸を定めるべきだ。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	50才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について  その建設が川の流れの住民の意見を尊重すべきである  堰を作り堤防を何年かで作るのもいいが</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について  堤防整備がなかなか進んでいないので早期に治水安全度を  上げるための仕組みが必要である</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課  
今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[Redacted]
②住所	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]
④職業	会社員
⑤年齢	57才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>私は、治水の安全性を高めるには、ダムによる治水しかないと思っております。</p> <p>この腋川というのは、大洲盆地があって、長浜に至るまでの途中に川が勾配が緩くて、水吐けが悪い。今、全国的に、あちこちでケリウ豪雨が起きます。この地域に豪雨が起つたら、堤防を高くした方がいいという、越水の危険性があります。せめて山南部の所だけでも、ダムによって防げれば、水は緩やかになると思う。</p> <p>※低地で降るより高地(山南部)で降る方が、ほかに多いことを認識する必要があります。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>堤防整備を早く進らさなければなりません。</p>



(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	48
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治水安全度を早く手厚にする為にはダムによる治水しかない</li> <li>・堤防を上げると内水で家が浸かる</li> <li>・堤防を上げると一気に決壊して人の命に及ぶ事態になるのでは</li> <li>・続けて洪水が来る場合、河床掘削が最も合うのか</li> </ul> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水没者の多くが賛成なら、計画通りダムを進めるべき</li> <li>・浸水被害の多い地域では、時間をかけずに効果のある方法を選ぶべき</li> <li>・国は国民に平等の安心、安全を施す義務がある</li> <li>・地元住民の意見を熟く聞いてくべき</li> <li>・川と住民の暮らしとのかけわりは場所毎で違うと思います。それぞれの実情を踏まえて計画をたたくべきです。</li> </ul>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課  
 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

### 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	55歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について          ◎「緑のダム」については科学的データに基づいた検証を          最近、「緑のダム」という新しいダムが登場し、ダム反対論を展開          する人々に引っ張りダコの感がある。          森林の洪水出水遅延効果は、確かに小洪水時には効果は有するであ          るが、治水計画が対象とするような豪雨の大洪水にはほとんど効果          がないと思われる。また、森林の渇水時の水源涵養効果についても、          森林の増加は葉面等樹木からの蒸発散量を増加させ、むしろ渇水時に          は河川への流出量を減少させることが検証されている。          有識者会議におかれては、「緑のダム」についても科学的データに          基づいた検証をお願いし、その効果について広く国民に説明周知して          いただきたい。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について          ◎B/Cではなく「災害頻度」を評価軸に          築堤やダムによる洪水調節での被害軽減効果額をどのように評価          するかという手法として、B/Cによる評価が採用されている。          B/Cはあくまで、事業の経済的な効果を評価する手法であり、治          水対策手法を検討する際には、その対策により、どれだけ住民の生命          財産が守れるかを第一義として評価検討すべきものであり、その流域          の「災害頻度」や現在の「治水安全度」を考慮した評価軸を検討すべ          きである。</p>

国土交通省河川局河川計画課  
 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

済

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[Redacted]
②住所	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]
④職業	会社役員
⑤年齢	39歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>○ <u>維持流量確保・清流復活のための検証について</u></p> <p>近年、住民の親水性へのニーズ増大等もあり、治水、利水に加えて自然環境と利用環境の両面にわたる河川環境にも配慮したバランスのとれた川づくりを目指すべきと考える。</p> <p>特に、昨今の異常現象による少雨化傾向により、平水流量が年々減少傾向にあり、一段と河川環境が悪化している現状を考えれば、維持流量の確保、自然に近い河川流況を回復することは、必須の課題であり、有識者会議におかれても十分な検証をお願いしたい。</p> <p>また、維持流量の確保は、水質等の水環境の上からも重要と考える。昭和30年代の高度経済成長期に顕在化した水質汚濁問題以降、各流域においては、清流復活を目指し、汚濁負荷量の削減に取り組んでおり、順次、その削減が図られているところである。水質は「汚濁物量」と「水量」の関係で決まることを考えると、河川流量を増やせば、汚濁負荷量の削減効果と相乗し、おのずと河川の水質は更に向上するはずである。</p> <p>なお、水辺など利用環境の整備は河道整備の範疇であろうが、維持流量の確保は、緑のダムが渇水時にはむしろ河川への流出量を減少させることを考慮しても、上流調節施設以外では不可能であり、この点からも「ダムなし」議論はあり得ないものとする。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>特になし</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	49才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について 堤防の整備だけでは、流量の調節ができないので、下流域で水位が上がるので洪水の可能性が高くなる。流量調整のためにもダムは必要である。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について 浸水より住宅や農地に被害が出るのが多いので、早期のダム建設をお願いしたい。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	59才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>最近は大粒的豪雨が頻りに森林の整備や堤防を上げる等により洪水をふせけるのかダムによる治水対策が必要に思われます</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>ダム計画が決定したにもかかわらず 政權が代わるとも計画どうり前に進めてほしい</p>

### 河道掘削

大洲 - 長浜河口間の縦断勾配が無い為め塩水が溯上する可能性あり又護岸、橋台、橋却、が崩壊する可能性もあり又、工業用水、浄水場の井戸（湧水期）に塩水が混入する可能性もあり、この案には絶対反対である。

### 引堤

山鳥坂から長浜河口迄に新たに堤防を作る用地がありますか地形的に無理だと思う、5~10メートル広げても流量的に変わらないのではないか、それより全体的に見直しの方が大変になるとおもいます。

### 堤防の嵩上げ

まずは景観的に悪くなり、窪地ができ河川の支流をなおさなければならないし、生活環境が悪くなる。

### 森林の保全

森林を作るのにどれだけ年数がかかるか私は20~50年はかかるとおもいますその間に豪雨災害が起こるとも限りません。保水には賛成です、ただ針葉樹と広葉樹とのバランスがとれてないから森林の荒廃が進むと思います、山の下刈りは10~14年はかかるとおもいます、だれが管理をするのが問題があると思います。

以上のことを考えていくならば、私は既存の計画重力式ダムが一番良いと考えます。今の鹿野川ダムが何故荒廃したかを考えた場合これは私の考えですが死水、上流での田畑の農薬、肥料、糞尿、不法投棄、生活排水などが上げられるとおもいます。今度鹿野川ダム放水路トンネルが作られるそうですが私は大賛成です山鳥坂ダムには、死水、汚泥、堆積砂、を抜く方法を作ってください。最後に1日も早く着工が出来ますように願っております。

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	58歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>▶ <u>台風16号による災害は、ダム(小島坂ダム)の絶対的必要性</u></p> <p>。日本の川では短時間に大量の水が一気に流出する恐れがあるので洪水被害を防ぐには流水の一部をダムにため、下流への放流を制限する手法が効果的。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>▶ <u>ダムは一定の限られた条件下では洪水調節効果を発揮する</u></p> <p>。小島坂ダムは洪水を貯める容量が大きいことから洪水のピークを調節でき、既設2ダムとの統合管理により、脈川下流の洪水位を大幅に低減させることが可能である。</p> <p>大洲市(脈川)の氾濫源に暮らす人々の安全な生活を守ることであり、ダムの必要性を訴えます。</p>

(別添：意見提出様式) /

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	59才
⑥性別	男性
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>大洲市の場合、豪雨になると現在の堤防・緊急避難的遊水池だけでは到底間に合わない。ただでさえ大洲市は海との高低差がなく水害を受けやすい地形である。治水安全度を早く平等にする為にはダムによる治水しかない。もう一刻も猶予はない。常に豪雨の度に安全と生活を脅かされ、被害に悩まされている地元住民の心境を考えて頂きたい。一方的なダム凍結ではなく、地域全体の安全性を考慮し、地元住民の意見を尊重し、安全な治水対策を早急に実施して頂きたい。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>地元の意見を踏まえて河川法の手続きによって定められた計画の通り整備を進めるべきである。災害は待ってくれない。ダム凍結の間にも災害対策は遅れるのである。実情を踏まえて一日も早い計画通りダムを進めるべきである。</p>



国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	会社役員
⑤年齢	72歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>肱川流域では、昭和18年・20年と死者を伴う大水害となったことから、直轄事業として改修事業に着手されております。</p> <p>この計画は、旧大洲町や新谷市街地の整備にとどまり、それ以降も人口・資産の集積する箇所が優先されたことから、着工以来約60年を経過した現在も、最下流の長浜河口付近や中流部の菅田地区は未整備の状況であり、平成7年の激甚災害対策緊急特別事業の採択や平成16年の一級水系肱川河川整備計画の策定により、上下流のバランスをとりながらの治水対策が始まったばかりであります。</p> <p>河川整備計画の策定に至るまでには、紆余曲折を経ながら引堤案、嵩上げ案、遊水地案、河道掘削案、ダム案等を比較検討するとともに、地元説明を繰り返しながら合意形成に努められ、河道整備、鹿野川ダムの改造、山鳥坂ダムの建設事業を3本柱にした「河川整備計画」が策定されたと聞いております。</p> <p>その整備計画が策定された平成16年に引き続き平成17年に再度被災した我々は、水害の悲惨を舐めるとともに、これらの規模以上の水害を受けることは、当地区(東大洲付近)での起業、経営を続けることの希望を失いかける事態であります。</p> <p>平成12年に高速交通時代を迎え、大洲市も東の玄関口として、都市機能の充実を図り、河川管理者以外の努力として「二線堤」や「盛土規制」等を実施されるなど、できる努力はされているとは思いますが、我々災害を受ける身としては、予測されるものは未然に防止いただけることが前提であり、安心・安全のよりどころが欲しいと考えております。</p> <p>他の河川では治水安全度の目標が100分の1を超えたものもあり、人口・資産が集中する区間では、完成堤防になった地域が多数あると聞きます。我々が住む「肱川流域」でも、国土交通省が提唱される「100分の1」は最低限の必要条件と考えております。</p> <p>整備をされる手順等詳細は承知しておりませんが、当地域では資産が集積しており、今後も期待できる位置にある東大洲地区の治水安全度が早期に向上することを期待し、そのことが可能な手法が現在の河川整備計画であると聞いておりますし、理解をしたつもりでありました。</p> <p>政権交代で「ダムに頼らない治水対策」も結構ではありますが、目標とする治水安全度の確保とそれに近づく「最速の手法」を有識者会議でご検討いただくことを期待致しまして、経営の継続を図って参ります。よろしくお願ひいたします。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	農産家
⑤年齢	42
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について 堤防を上げると内水で家が浸かる</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について 国は国民に平等の安心、安全を施す義務がある。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛 御中

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	50才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1, 000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 堤防を上げる河川は、大洲の地形的に、水量が集まり、浸水を起こす可能性が高い、河川への流れが変わること考えられ、新たな被害が生じることは避けたい。</li> <li>・ 堤防を下げた河川は、河床が高くなり、治水を緩和する河川は、環境・生態系に影響があるのではないか。河川にこの高度差が服川の場合、特に河川の影響があるのではないか。</li> </ul> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 服川(大洲市)は、水源が小国川水系と服川水系から集まり、その平均降水量が増えている。大洲市内、その被害を、遊水池(市街の周囲)で補った水、低地地帯にありながら、堤防を下げた河川と併せて、治水のためダムと云う形で遊水池を設け、水量を調整することにより、更なる被害が減少すると思われる。以上より、ダム計画は推進すべきと思う。</li> </ul>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	49才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>・ 政権が変わって、経済が不安定な今の時期に、 大洲の活性化につながるダム治水計画を推 行させるべきである。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>・ ダムによる治水化計画と併に、F流域の 不安な部分の築堤計画を建て、より安全な。と より実質的な内容を供する予算の運用を 期待する。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	46才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>治水対策について、主に既存施設の有効活用、河道の掘削・堤防の嵩上げ等にて対応する方法を検討しているが、実際に温暖化による集中豪雨等に対して対応できるとは思わない。</p> <p>又、近年の公共事業費の圧縮により河道の掘削・堤防の嵩上げ等の対策工事に多大の時間がかかり、地域住民の安全が危険にさらされるのではないかと心配である。</p> <p>又、一方的なダム凍結ではなく地域全体の安全性を一番に考慮し、住民の意見を聞き地域にあつた治水対策を構築していただきたい。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>治水対策の検討にあつては下流流域の自然環境及び水資源の利用を考慮し将来の目標とたてて欲しい。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	36
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>堤防を上げると内水で家が浸かる。</p> <p>最近、ゲリラ豪雨など増えているが、大洲市は 水に浸かりやすいので、考えられる全ての対策を とって欲しい。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>大洲市は治水安全度が15分の1と小さいため、 企業の撤退が相次いだ。企業誘致が進みません。 これを評価軸に入小してください。</p> <p>15年に3回も洪水被害にあっているが、これらの解消に 対する評価も行っていないか。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	44歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>ダムありきの考え方は私も賛成できませんが、なぜダムにたよらない治水なのか？最初からダムはだめだと言うことでは、治水対策案が偏った考えの計画になり、理想とするその河川に合った河川整備計画が立案できないと思います。</p> <p>ダムが環境を破壊する、水質の悪化を招く、水産資源に影響を及ぼす等、確かに今までのダム事業に於いては悪影響を及ぼす原因になっていたこともあったと思います。</p> <p>しかし、日本には昔から溜め池を作ってきた文化があり、必要な貯水はこれからも必要不可欠であり、水質や水産資源に対する影響等は、これからの技術で克服していくものだと考えています。</p> <p>私が住む肱川流域に於いては、流域住民の同意により、山鳥坂ダム建設と鹿野川ダム改造及び堤防整備の3点セットで、治水対策と肱川の安定的な流れを確保する肱川水系河川整備計画が平成16年に策定され平成45年の完成に向け事業を展開しているところです。</p> <p>これを、流域にまったく関係のないところから凍結の話が出てくるのは納得いきません。これで治水対策が遅れるような事になり、被害が発生した時には、誰が責任を取っていただくのか。</p> <p>現計画より遅れることが無いよう、現計画より悪くなる事が無いような対策について、一日も早く結論を出していただきたい。</p> <p>私の意見としては、治水対策や安定的な肱川の流量の確保等の事を考えると、現計画が最良だと思っています。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	54歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について 治水緊急度を早く平等にするにはダム治水しかない。何故ダムが悪いのか。緑のダムといふが人口が増えればダムは淡水が乏しかった。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について 地方も都府県と同じ安心・緊急度を求める。人の命に差をつけるな。行政が一度地元で説明して地元が理解して盛り出した事業は継続すべき。約束を途中で変更すると精神的苦痛がともなう。その痛も評価すべき。</p>



(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	35
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>水害と河床を掘削し続けるのか 河床を掘削して鮎や他の生態系に影響はないか。 掘削する時期は鮎の産卵への影響は。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>治水被害が明らかなら、計画通り早期に ダムを進めるべき。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	学社員
⑤年齢	60才
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>● 治水対策は全国一律の基準で講じるのではなく、各河川の地形的特性や土地利用形態を勘案して、その河川に即した治水対策案を策定し実施すべきで、特に肱川流域は急峻な山地が連続し、平地部の大部分を上流の宇和盆地や中流の大洲盆地が占め、その盆地に支流の多くが集中しており、大洲盆地から河口に向かって急峻な山が河岸まで迫り、河川沿いには住宅や企業が立地しているなど、特異な河川形状や土地利用形態をなしている。</p> <p>通常河道整備の整備手法である「堤防嵩上げ」を肱川で当てはめると、近年の気候変動から計画洪水流量を超えた洪水が発生し堤防を越水した場合には、人的被害等深刻な被害が起きる事から、堤防を余り高くすることは非常に危険で肱川では必要最小限に止めるべきである。</p> <p>この事から、肱川では地形的特性や土地利用形態に即した、「上流のダム等による洪水調節を行い、堤防高を極力抑制した総合的な治水対策案」を検討する事が、肱川にとって理にかなった治水対策案である。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>● 大都市では計画上の治水安全度が1/150から1/200と高く、地方では1/100程度で、憲法で日本国民の人権及び生存権については平等が保障されており、河川整備では人命の価値そのものが差別化され憲法上問題である。</p> <p>河川整備は人の生命財産に直接関わる事業で、費用対効果の大小でなく、新たな評価軸では「何処に住んでも日本国民は等しく最低限の治水安全度を保障すべきで」あり、過去15年間に6回も浸水被害を受けている肱川の現在の状況を放置することは問題である。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	会社役員
⑤年齢	48歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>治水対策は、その河川によって異なる。      肱川を例にとれば、流域の90%を山地が占め、少ない宅地や優良農地を潰して、大規模な堤防整備や遊水池計画は、平地の少ない肱川流域には馴染まない。      肱川流域のまちづくりを考えると、森林整備による保水力の強化、ダムによる洪水調節と渇水時の河川水量の確保、必要最小限の堤防整備、河床整正等の河川管理、これらがセットで洪水からの安全確保と河川を中心とする、水と緑の豊かなまちづくりが出来るものと考え</p> <p>近年の降雨状況は、地球温暖化等の影響があるものなのか定かではないが、梅雨前線による、しとしとと降る雨が少なくなり、局地的な豪雨や、年々巨大化する台風による豪雨が多くなっている。      肱川流域でも、平成16年17年に連続して、台風による大洪水が発生している反面、渇水による被害も年々増加している状況である。      洪水対策と渇水対策、これらの解決策は、ダム新設と既設ダム改良(水質の改善を含む)による洪水調節能力アップと河川水の安定供給、及び堤防等の整備による河川整備と森林整備が、肱川流域のまちづくりの基本になるものと確信している。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>これからの治水対策案を比較する上で、河川区域内の環境が大きなウェイトを占めると思う。川とともに生きるまちづくりには、豊かな流れや豊かな緑と、生き物たちが群れるオアシス的な存在が重要である。      それを守り育てる河川整備計画であれば、治水対策案の大きなウェイトを占めると思う。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	団体職員
⑤年齢	58歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>「できるだけダムにたよらない治水」のテーマにそもそも疑問があります。これまでダムは洪水調節や渇水対策、発電などに大きな役割を果たしてきました。ダムを否定する前にダムの効果を検証する必要があります。それをしないでダム否定を前提とした議論は意味がありません。</p> <p>洪水対策は堤防、河道掘削、遊水地、ダムなど、様々な手段があります。それぞれの河川において河川の特性を踏まえ、これらの手段を組み合わせ、多方面から評価し、最適な計画とすべきです。</p> <p>また、ダムは利水面でかけがえのない(代替困難な)施設です。高度化した現在の経済社会で渇水被害は膨大なものになります。さらに、地球温暖化で渇水が多発するとの予測もあります。東北では山の雪解け水を前提として生活しているのが実情です。この雪も年々減少しており、温暖化に伴い更に減少することも懸念されます。将来を見つめた治水事業のあり方を慎重にご検討願います。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>①超過洪水対策の目標設定</p> <p>治水事業は河川毎に計画対象高水流量を定めて、これを安全に流下させることを目標に治水施設の整備を進めていますが、現状では、まだまだ不十分な整備水準です。このような中で、毎年のように河川の流下能力を越える洪水(超過洪水)が発生し、大きな災害となっているのが実態です。これまでは超過洪水による被害は河川管理責任の範疇外でしたが、今後は、超過洪水に対しても整備目標を定め、必要な対策を計画的に取り組むなど、責任を持つべきです。</p> <p>②治水事業の費用対効果(B/C)の算定</p> <p>治水事業の評価においてB/Cを重要な指標としています。しかし、便益を算定するに当り金額に換算できないもの、困難なものについては計上されておりません。具体的には、人の怪我や生命、工場の稼働停止に伴う関連産業の損害等です。このような指標もできるだけ取り組んで費用対効果を提示すべきです。</p> <p>③堤防の健全度評価の公表と計画的改修</p> <p>堤防の健全度は築堤された履歴や材料などにより、良質なものと劣悪なものまで様々です。国民に堤防の実態を公表すると共に優先度の高いものから改修すべきです。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[Redacted]
②住所	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]
④職業	無職
⑤年齢	81
⑥性別	女
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>成瀬ダム建設予定地には、ダム完成時にその底に沈むことになる「赤滝神社」がある。</p> <p>「赤滝神社」は400年以上も前から今日に続く人々の信仰の場である。16才になる城主の娘・能恵姫(のえひめ)が、縁ごうというその目に川に呑まれて帰らぬ人となり、水を司る雷神となり祀られたことを由来とする。以来、人々の信仰を篤め、洪水・水不足の折には正腹に身を圓めた慶風達が列をなして参拝をしたとの江戸時代の記録も残されている。</p> <p>神社の廻りの自然はよく残され、このことが洪水防止に繋がります。赤滝神社の御利益として崇められたことだろう。先人たちはこのようにして自然をむやみに破壊することを戒め、自ずと自然とのバランスを取って来たのだろう。</p> <p>昨今、精神に不安を抱える現代人が多いとされるが、その原因は地球規模で広がる環境破壊と繋がりがあのではとの指摘も多い。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>「赤滝神社」のような決して数字では数えられない”聖なる地”を破壊することの意味を検証すべきである。</p> <div data-bbox="798 1657 1356 2128"> </div>

2010年02月17日 18:07

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

(別添：意見提出様式)

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	61歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>線的な治水対策では限界がある。総合治水的な面的展開を図るには、国土利用計画に基づく土地利用規制をしなければ、際限なく治水対策を見直すことにもなる。何よりも流域一帯の土地利用計画を確定しなければ、具体の対策もすぐダメになってしまう。土地利用計画・規制がなければ社会基盤整備は際限なく続き、成熟社会にはいつまで経っても到達しない。ダムだ堤防だと言った技術論の前に、その流域上下流一帯の将来をどうするか、土地利用計画・規制が受け入れられるかが、流域住民に問われている。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>都市は背後にある中山間地の適正な管理があって成り立っている。今の日本は低地部への一極集中を推し進め、効率ばかりを追い求め脆弱な国土を造りつつある。中山間地を支えているのは、農林業に従事しながら公共事業による現金収入に頼っている高齢者である。中山間地の過疎化による荒廃は、都市部の治水安全度を担保できなくなる。地域建設業は、自然災害に対する緊急時の対応を求められるが、仕事があれば廃業となり、より過疎化と山地荒廃を進める。「治水としての維持管理事業で恒久的雇用による生活権の確立」といった評価軸が必要ではないか。</p>

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 殿

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	TEL: [REDACTED]
④職業	農林業
⑤年齢	71歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>地方拠点都市の大洲地区中央を貫流する肱川は、愛媛県最大の延長と流量をもつ一級河川であり、古来幾多の大洪水によって膨大な被害をもたらしてきた。これは河口までの約16.5kmの部分が類を見ない勾配の緩さと、河口附近で両岸の山が迫り、水はけがよくない地形によるものである。</p> <p>この河川の整備計画は、上流の既設の2つのダムと下流の堤防、それに凍結されている山鳥坂ダムをもって治水を行うというものである。</p> <p>治水対策の方策として、河道掘削の提言もあるが、河川勾配が緩いため、それ程の効果は望めないと思える。</p> <p>このように特殊な状況にある河川の場合は、止むなく環境に最大の配慮をしながら、ダムによる治水対策によらざるを得ない場合もあると考える。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>評価の考え方等の検討に当たっては、それぞれの河川の持つ実態、被害状況によって考えるべきであって、単に費用対効果等のみによって評価軸を決めるべきではないと考える。</p> <p>又、今後の個別ダム検証に当たっては、地元自治体の長及び地権者の意見を含めて検証することとされたい。</p> <p>3) 附記</p> <p>山鳥坂ダムの凍結関係資料では、「調査・地元説明」の段階となっているが、私たちは、平成21年10月9日発表の大臣コメント以前の平成21年9月6日に補償基準を了承し、妥結している。</p> <p>用地買収とは、用地調査に基づき用地交渉を含むものであり、補償基準の妥結は用地買収そのものである。</p> <p>河川法にいう知事の意見も聞かず「基本協定」「補償基準の妥結」等契約を無視した凍結は違法であることについても、今後の課題として言及されたい。</p>



(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[Redacted]
②住所	[Redacted]
③電話番号又は メールアドレス	[Redacted]
④職業	無職
⑤年齢	64
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 森林による緑のダム効果を植樹等で高めることでの対応や、堤防かさ上げ等での対応に切り替えること。 森林自然や河川の生態を破壊せずにやるべき時代になっている。</li> <li>* 昨秋10月成瀬川上流の北の又沢を訪れた。イワナが釣れ、植物群が豊かで、森の命の営みが全身に心地よく伝わってきた。この様な貴重な自然をダム湖底に沈めてしまうような人間側の不運な所業は断じて止めるべきである。 人間と自然の命の共生の観点を忘れてはいけないと思う。</li> </ul> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 税金の無駄遣いをやめるという原則を掲げるべき。</li> </ul> <p>成瀬ダムは農業用水確保を建設目的の第一としているが、減反によりその必要性が無くなっている。 第一目的を失った必要度の極端に低いダムに1530億円もの国民の血税を懸れ流すような愚はやめて欲しい。 天文学的な赤字を抱える国日本の取るべき道ではない。</p>



(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又はメールアドレス	
④職業	会社員
⑤年齢	62歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>食糧難の時代や米価が上昇した時代には、野放図な開田が行われ、圃場整備などでは原野であったところまで立派な圃場としてしまった。拡大した圃場を賄うための取水が始まる。例えば成瀬川では成瀬頭首工と皆瀬川合流点までと、皆瀬川では皆瀬頭首工と雄物川の合流点まで5月から8月までの間、川の流れが断たれてしまう状態になる。川にとっては異常な取水が行われていることになる。</p> <p>結果として稲作の場合は生産調整による減反や農業従事者の減少などに伴い、耕作放棄地が発生し非耕作地が増大するに及んでいる。これらの非耕作地を河川の両側に集め治水対策に活かす方策を考えるべきである。</p> <p>また核家族化などが進み、宅地造成も本来すべきでない地域まで無計画に拡大していった。</p> <p>圃都市型水害について、秋田市では床下や床上など常襲水害地区があるが、被災地上流の水田や遊休地に増水を導くなどして治水対策を考えるべきである。被害にあった農作物については、公的に補償するシステムを作るべきである。</p> <p>圃河川の両側に河畔林を造ることや、堤防に笹竹や竹林を植栽し、堤防の強化や越堤の際の水を緩やかに流す対策をとるべきであり、遊水池やため池などを造り水害をやわらげるべきである。</p> <p>圃現在の圃場への配水方法は、田んぼ1枚に配水し、その田んぼから排水している。有効な水利用は考えられていない。圃場の多面的な機能という考え方からも逸脱している。天からの恵みである水の有効利用というソフト面からも考え直す必要がある。</p> <p>圃川は水が流れていなければ川と言えない。水が流れない期間があることは、川の生態系のみならず、地下水の枯渇や氾濫など人間生活に多大な影響を及ぼすことになる。異常な取水はやめて、最低限川として機能させるべきである。ダムによる「河川の正常な流量維持」などは論外といわなければならない。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 様

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	地方公務員
⑤年齢	68
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>秋田県雄物川水系「成瀬ダム」について、治水、利水等総合ダムとして計画され、極めて順調に事業が進捗をしていた。この事業進捗とあわせて、中下流域では、頭首工工事、灌漑用水路なども急ピッチ進められている。</p> <p>また、水道事業についても、既にこのダム完成を見越して、暫定取水の同意をいただいて、数年前から全所帯に給水をし、地域の方々から安心安全な生活確保が出来たと喜ばれている。</p> <p>そうした矢先に、突然、検証ダムとなった事に対し、大きな不安を住民は抱いている。</p> <p>特に、暫定取水とはいえ、やっと安心して生活用水、飲用水が確保でき、将来の生活設計も出来たことになっている。</p> <p>こうした灌漑用水、水道水の対策を、どこに求めるのかが大きな課題となってくると考える。</p> <p>地下水に求める提案もあるが、現在、雪国であることから、消・融雪、流雪対策として、地下水利用され、地下水位も年々下がってきており、これに対する、新たな給水ポンプ工事も多額になってきている。</p> <p>こうした、利水対策の面からも、新たな治水対策では比較検討をしなければならないと考える。</p> <p>治水面では、雄物川流域の無堤区間は概ね100キロメートルを越えているし、この整備が緊急を要すると考える。</p> <p>また、完成堤防区間は134キロメートルだそうです。</p> <p>これらのことから、以下の具体的な提案をいたします。</p> <p>(1) 利水対策としての代替水利確保が出来るのかどうかご議論いただきたい。</p> <p>(2) 無堤区間と完成堤防区間の具体的整備事業と整備計画期間についてご議論いただきたい。</p> <p>(3) これらに要する費用と工事期間が現行計画との比較をご検討していただきたい。</p> <p>水源地の村としては、議会共々全面的に現行計画を推進ご協力申し上げてきたところであり、現在も調査事業等々で小さな村の民宿、商店住民、農家が一致協力しているし、経済効果も大きなものがあることを申し上げたい。</p>

H22.1.24

<ひとことメッセージ>

河川計画課

①堤防の強化や遊水池の整備などの対策はどのような場所で行なうのが適切か？

ダム、河川、ため池等が、日本全国、何ヶ所あり、どんな状態、状況なのか、調査研究し、アウトラインを完成させること(官僚も政治家(民主党議員)も、国土がどんなになっているかわからなくなっていると思われています。H21年度末までに)

<H22.3月末>

②過去、たびたび、水害、洪水に合っている地域をピックアップし、そこから改善、改良していくこと。

・小さい地域から大きい地域へ、市町村から県、国へ、

・いろいろな建造行政が行きまわって、平におえなくなっていると思います。

・ダム、河川、ため池、港等の老朽化をいかにすればいいのか。(ダム、河川のIM、底ざらい) 温

③遊水池は、5万t級とし、乾式(木ト-7°もしくは水式(木ト-7°とす)) (出来れば、10万t級)

・ダムへの流水路の整備改善

・香川用水の調整池富山湖が300万t貯水

・早明浦ダム(2億tが150日貯水) H22.2.13

<ひとことメッセージ>

河川計画課

② 洪水が起きた時の情報もどう迅速に住民に提供するか

。防災連絡システムは、無線システムや携帯TELシステムは、ある程度、機能しているようですが、防災サイレンを考慮すればどうでしょう。(パソコニ、ケイタイを揃った人が国民の半分は)

(航空機の X-7"、X-7" (参考) 居る!!)

(船舶の SOS SOS

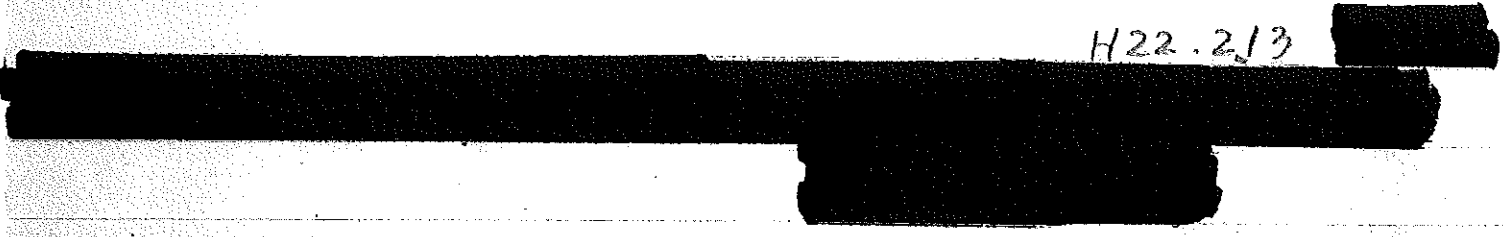
狭地域のサイレン、短信号連続 -----

(消防所と消防車ハトロ-ル鳴)長信号含 -----

。土石流も集中豪雨も、住民に、いろいろなシステムが揃って来ないのが、強サイレンシステムの導入(各種車輛用)(地域防災センター)

署

付、消防所は、強風注意報、乾燥注意報が出ると、都会は地方都市に、防火ハトロ-ルを打てる!! (都会は211が効能(711は安全ハトロ-ルにもなります。)



H22. 1. 24

〈ひとことメッセージ〉

国土交通省

③ ダム建設と堤防強化などを比較して治水策を決める際、費用以外にどのような項目を考慮すべきか？

- この文言を見つめていってこれといった案が考えられませんか？
- ダム計画は毎月かかると
- いろんな意味で、ほったらかしにしておかない？ 調査、研究しておく事
- ダム、堤防は、いつどこに建設するのかわからないような性格のものがある。

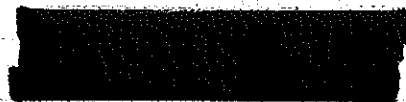
○ 災害があったから、そこを改善しても早かれ遅かれ、またおこるかもしれない。

○ 改善すべき所は、30年か40年、過った各地域は、無条件で改善する。

○ 応急処置：ダム、河川の底ざらい（しゅんせつ）

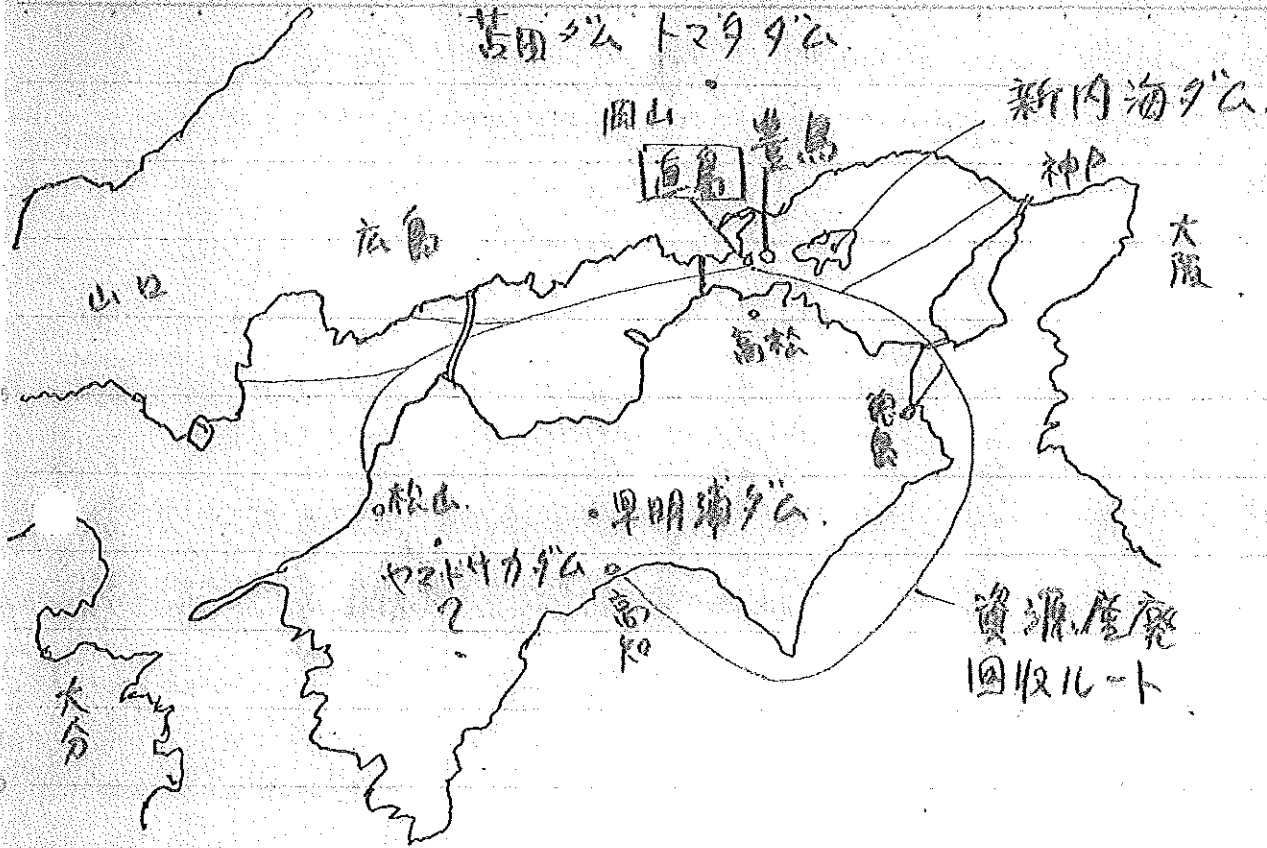
○ 官僚も考えつかないのを提案募集をしていこうか！！  
(4~5年前から)

H22. 2. 17



# < 水とエネルギー > 資料編

苦田ダムトマダダム



○ダムにありとも、四国に日本全国に何ヶ所あり、各ダムが今どんな状況で進行して、これからどんな計画なのか、民主意識と官僚が協力し合って、アウトラインも完成させておくこと。

(H22.3月の1ヶ月間まで)

(H23年3月まで)

○ハッ場ダムは、ダム本体以外は、H22年度中に完成させること。その間には住民との話し合いの方向に改善させていくこと。

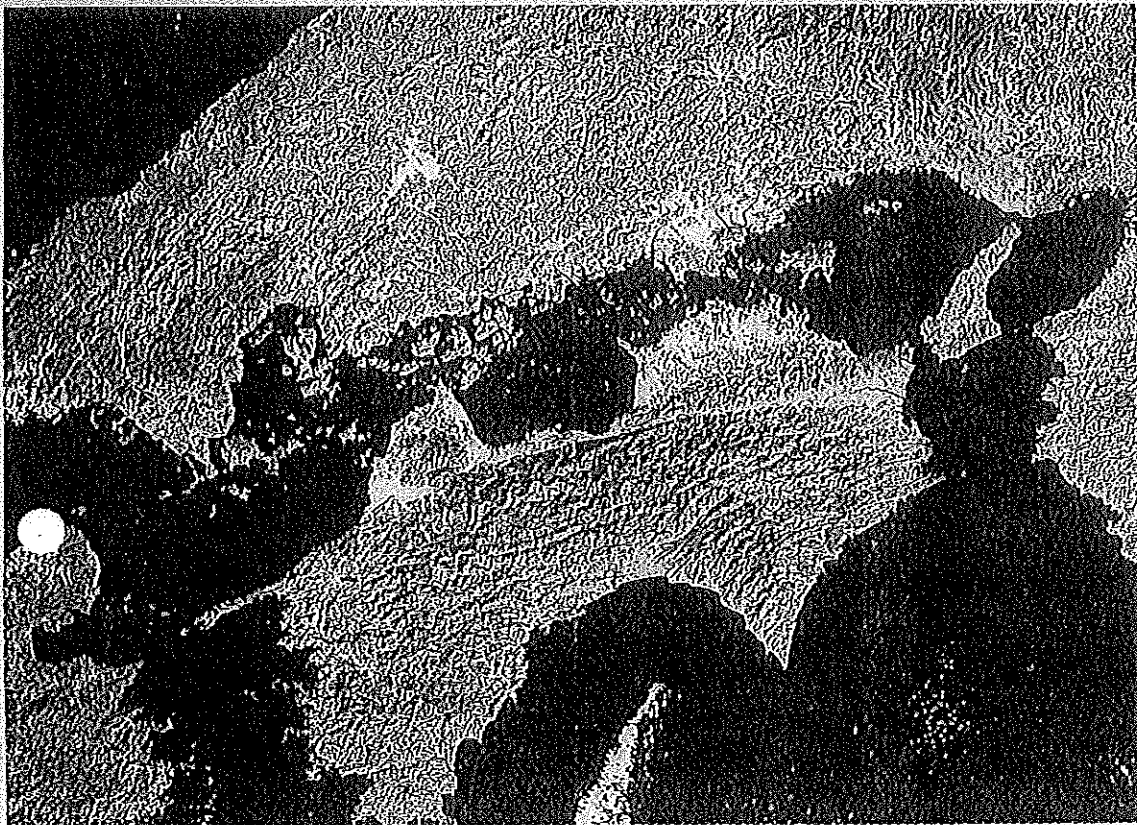
○直島 = 資源産廃リサイクル拠点

||

○都市鉱山の再資源化システムの確立

○中国、四国の電気機器の集積場とする

○海水希少金属の回収技術の開発 - 海水淡水化の副産物不純物高濃度海水から希少金属を回収する技術開発と実用化。(金、銀、銅、白金、シリコン原料等)



海砂採取への対応は瀬戸内海圏域の共通課題。一体的な取り組みが必要だ

○中国、四国の衛星写真を見つめると、山が多い、島が多い。  
(原稿カラー)

太平洋、瀬戸内海、日本海にかたまっている、ほんの1部の日本に  
1000万人 2000万人の人々が暮らしています。(この写真図の中を)

○緑がものすごく多くあっても、それにかまるとおれないうらい  
厳しい生活を送っている人々が大部分でしょう。

民主党政権も広い目で見て、政治、経済、社会も良い方向に  
少しずつ改善して行っているものですね。

○公益法人も行政法人も、政府のかたがわり(業務)をしている  
組織だとうろと思っますのよ。5%の予算カットで役員報酬も1000万円  
以下のシステムにするよ。(各法人一律)

11号

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	弁護士
⑤年齢	70
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>別紙 意見1、2のとおり</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>別紙 意見1、2のとおり</p>



## 別紙

### 意見要旨

意見1 ハイドログラフピーク流量郡から基本高水を決定するにあたり、広く住民参加のもとに別表1の例に沿った検討を行なって決めること。

説明：国交省の河川砂防技術基準によれば、ハイドログラフピーク流量群は基本高水に適した候補群であり、その中からどれが最適かは政策的選択の問題である。住民の意思を無視して一方的に決めていた現在の行政は病理的である。別表1は、千歳川放水路問題の際、道内の6市民団体が連名で、北海道が設置した千歳川流域治水対策検討委員会に提出したものである。特殊例であり、通常は環境問題、予算規模等が横欄に並ぶことになる。

意見2 別表2の例に沿った情報及びその根拠となった情報を全河川について直ちに公表すること。

説明：基本高水と年確率の関係は別表のように整理できる。国民はこの表を見て初めて、現に行なわれている治水計画が、実際に経験した過去の洪水に引き直していくらに相当するかを知ることができる。この情報を広く公表し、現在の基本高水による年確率は、現実には起こり得る確率とは別物であることを説明する必要がある。これは情報公開法上の説明義務である。

# 別表1

## 基本高水その他の要素の連結的考察

※以下はあくまでも考えるための目安である。ものの考え方、数値のとらえ方、あるべき治水対策の方向をどのようにとらえるかで異なってくるが、徹底した現実主義で考える必要がある。

※以下の中で何を選択すれば千歳川の対策で何をしなければならぬかという相互関連の中で具体的な対策を考えていかなければならない。

※このような考察はより詳しい幅のある選択肢を示して新河川法による基本方針・整備計画に先だって関係自治体や住民に提供しておく必要がある（「総合河川計画」の素案の一部で示されるべきもの）。

基本高水 (註1) 150年確率 ( )は保水力 強化の数値を入 れた後の数値。	計画高水 (河道以外流量 配分3,000m³) (註2) 高水位(註3)		必要な対策(註4)						安全性・56実績比較	技術上の難易度	道民合意困難性 註5	健省・審会・中間報告	摘要
	高水位	要引下	浚 渫	遊 ・旧 ・貯	低 水路 ・高敷	背 割 堤	カ ツ ト	完 成 予 定 ダ ム					
11,400m³ ( )	8,400m³								実 績		大		
12,000m³ ( )	9,000m³								実 績 林		大		56年実績
13,000m³ ( )	10,000m³ 7.55   0.55								一 千		中		
14,000m³ ( )	11,000m³ 7.85   0.85				小		無		二 千		中		
15,000m³ ( )	12,000m³ 8.15   1.15			加	小	小	要		三 千		小		56実績25%増 大型工事 中心にな るかどう かの分岐
16,000m³ ( )	13,000m³ 8.45   1.45			加	小	中	要		四 千		小		総合 分岐 点? 註6
17,000m³ ( )	14,000m³ 8.75   1.75			加	中	大	要		五 千		中		計画高水・高水位は 現計画の数値に同じ
18,000m³ ( )	15,000m³ 9.05   2.05			加	大	大	要		六 千		大		56実績50%増 巨大大規模工事の段階

- 註1：カバー率通常60～80%の中間値70%だと基本高水ハイドログラフ7例では16,400m³である。
- 註2：57年基本計画のダム・遊水池流量配分は3,000m³である。(57年基本計画に組み込まれていたダムの帰越が影響する。新たな対策でどのように流量配分するかは重大な政策問題である)。河道以外の流量配分が現計画より大となればその分計画高水・高水位は下がる。
- 註3：高水位は57年基本計画の計画高水流量14,000m³で8.75mになっている。1,000m³当たりの水位差はすくなくとも30cm位はあるようなのでこれを使う。保水力改善(農業・森林・都市政策)による流量配分をどの程度期待できるかの情報も提供されていないが必要である。
- 註4：57年基本計画におけるダムの内訳内容・実現の見通しが不明だったので項目のみ記載。その数値で他に影響する。
- 註5：道民合意とは、基本高水が低いと洪水被害地の住民が不満を持つのは当然であり、他方流域外に対策を求めると強い抵抗に会うことも当然であること、また整備計画の自治体・住民意見形成の難易度も視野に入れた。特に重要な検討要素は数十年にわたる大型の住民間対立が発生する可能性を宿す場合、道・関係市町村にどのような行政上の停滞を招くかである。この判断は各自治体の責任であろう。
- 註6：基本高水/流量配分によって対策規模が決まる。技術の開発力=低廉化によってこの分岐点は相当移動すると思われる。

# 別表エ

## 基本高水と年確率の関係

高水流量 (下(規)部)	18000 8620	17600 8100	16400 4530	16100 6800	14400 12060	12500 3836	11400 4529	降雨パ ターン
18000 (規部)	1/150			1/110?	1/70?			50・8
17600		1/150						37・8
16400			1/150					48・8
16100				1/150				36・7
14400					1/150			56・8
12500						1/150		40・9
11400							1/150	41・8

- 註① 基本高水18000m/sというのは50年8月の降雨パターンを採用した場合は年確率1/150となり、56年8月の降雨パターンを採用した場合、数値が出されていないが、分母は大きくなり、たとえば1/250といった年確率となる。
- 註② 上図では50年8月の降雨パターンで約1/70は56年8月の降雨パターンでは1/150となり両者は同じことを意味する。
- 註③ 現計画の意味を理解するには、上記のような性格を有する基本高水・年確率の意味を共通認識にしないと議論が混乱する。また一般の人に理解してもらえない。
- 註④ このような情報は18000を探るとらないにかかわらず必要である。

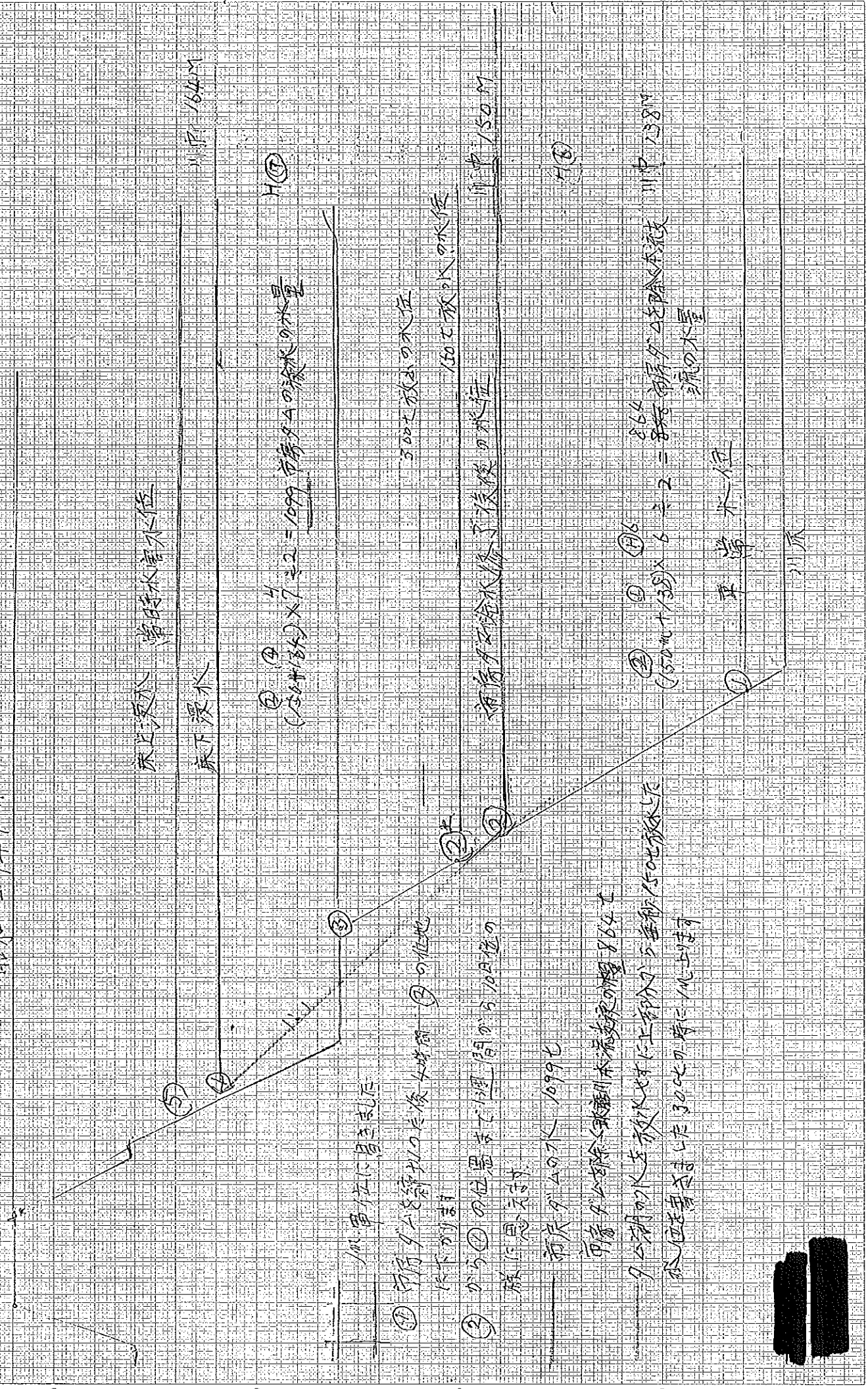
(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課  
 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[Redacted]
②住所	[Redacted]
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]
④職業	石工
⑤年齢	90
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	1) 幅広い治水対策案の具体的提案について 具体的な文章が本庁まで届くので、秋磨川の治水の重要 視した昭和57年の水害の時急激に水が引き始め 急激に水位が下がり、その間に②の所で来てそこから全前川から右 往で平常水位に落ちた。それから洪水のため ②に急激に付いて、屋敷が壊れた事、その様子を 録画して入って来る洪水が、付いて来た分 だけ②を出した。万全だと考えた。
	2) 新たな評価軸の具体的提案について

昭和 57年7月の水 (深層汚染誌)



1. 単位に書き直した

2. 市庁Aの排水の増加 ④の他地 床下湧き出す

3. ①の位置まで1週間から10日間の 床下湧き出す

市庁Aの排水 1997

市庁Aの排水 (深層汚染誌) 864  
 市庁Aの排水 (深層汚染誌) 864  
 市庁Aの排水 (深層汚染誌) 864  
 市庁Aの排水 (深層汚染誌) 864  
 市庁Aの排水 (深層汚染誌) 864



(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又は メールアドレス	[REDACTED]
④職業	会社員
⑤年齢	46
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>治水対策について意見を求める以前に今までやってきたことを説明する必要があると考えています。「できるだけダムにたよらない治水」に政策転換を図る前に何故ダムがあるのかの説明が無くして議論できないと考えます。「コンクリートから人へ」とか「八ツ場ダム中止」は民主党の昨年の衆議院選挙に勝つための根拠のないイメージだけの標語であって政策では有りません。歴史上、文明や生活は水との闘いの中で発展してきました。そのためにも今までやってきた治水対策について説明する必要があります。それを理解しないで今回の様な意見募集しても的を射た意見を集めることは出来ないのでしょうか。特にこのところの議論は歴史的な経緯を無視し過ぎています。</p> <p>先ず、必要なデータとして以前氾濫が発生した時の降雨量と被害規模、それに対する対策と進捗度を公表して下さい。今の前提は、全ての治水事業は完了している、または、ダムは無駄遣いであって治水対策として効果がないということになっています。そして、温暖化や都市化の影響で降雨量や豪雨程度を出して下さい。</p> <p>今のままでは、治水対策としては国会議員の住宅を堤防際に設置することしか提案できません。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>現在の治水対策の確立年数と費用対効果(被害額、事業期間)で評価すべきです。伊勢湾台風等と同規模の降雨量に対し、ダムもしくは堤防を高くする(スーパー堤防)にはどれだけの費用と時間が必要かを算出する必要があります。また、植林対策等はその効果と費用、効果が出るまでの時間を明確にする必要があります。その上で、治水対策は、本来の森林ダム、人工ダム、堤防の組み合わせで行うべきだ。民主党の無責任な標語に惑わされることなく、しっかりとした治水対策が必要である。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

① 氏名(フリガナ)	[REDACTED]
② 住所	[REDACTED]
③ 電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④ 職業	障害者施設職員
⑤ 年齢	54歳
⑥ 性別	男
⑦ 御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>今日本にとどまらず世界全体の異常気象を考えた時、複数の治水対策、(先人の知恵)を合わせる必要があります。混合林など森林整備による保水力のアップ(現在森林の荒廃、唐松など単木林による土の流出)河川の石砂引き上げによる天上川の解消、激流緩和として河川内へ分岐物の設置(木ガタ、大石、人工島) 堤防下の根入れ(巻き上げによる堤防決壊防止) 遊水地として、公園などでの一時保水、遊水地どうしを繋ぐ共同遊水地構想、遊水地を地下水脈と繋ぎ河川へ直接流れる雨水、山林などでの保水により時間差により地下水脈への流出を進めるサイホン型遊水構想、等が考えられます。</p> <p>現在河川は流れやすい用に直線に、堤防を付けています。その為堤防の横に人家が建っています。直線の為水流も早く、引堤も人家移動等の問題も抱えていますので、天上川解消など掘削を行い堤防には根入れをしっかりと行い、河川の広い所に大岩、人工島等水流の勢いを止めその周りに木柵等での決壊防止、一時保水として遊水地の設置を行う必要があります。</p> <p>今の森林の状態は、手入れが成されない荒廃林、唐松の根張りの悪さ、絡みにくく崩れやすい山になっています。その為にも土嚢と杭のように針葉樹、広葉樹の混合林が求められ保水アップを進める必要があります。</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>・ダムに関しての問題点</p> <p>災害河川などへの緊急措置としてダムの利用を否定はできませんがダムも問題が多くあり、ダムなど土壌の過剰保水による地震の誘発(長野西部地震、新潟地震) ダムにより石砂が止まる事での砂浜の消滅、水が止まる事での水質汚染、数千億円を掛けたダムが、数十年で埋まってしまう維持管理におけるコスト面の現実があり、今ダム決壊等の問題が問題視されていませんが、現在の異常気象の中決壊の危険性も隠れています。</p>

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	建設コンサルタント
⑤年齢	50歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>背景</p> <p>●山間部の降水は、林野の保水力により維持され、斜面崩壊抑止に貢献してきたが林業の衰退による林野の荒廃により山腹崩壊などの事例にあるように河川への過度の土石流入による対策が急がれる</p> <p>現状対策</p> <p>●斜面抑止に有効な工法は、斜面抑止工とされるアンカー工、切土補強土工の鉄筋挿入工等が挙げられるが、従来はクレーンによる足場設置が必要だった為に高所施工は現実的に困難であった。そこで、下流に土石流を待受けての緩速目的として砂防ダムが設置されたが、通常時の土石の堆積により満砂となり、その機能を著しく低下させており、満砂対策としての増設により、土石を塞ぎ止める事で生態系などの自然への影響などが問題とされている</p> <p>提案対策</p> <p>●仮設足場を必要とせず、施工高さに制約が無く二重管削孔など高品質施工が可能な”無足場アンカー工法”を活用して治山における根本原因的な素因を直接取り除く事により、氾濫元対策として二次的な対策である現状対策に換えて土石流入及び斜面崩壊を予防治山的に防止する</p> <p>高所斜面安定により土石流に対する土石の発生を抑えるだけでなく、透過型ダム(突発的な土石流や効果が出るまでの一時的なダム効果に期待)と組み合わせて通常時の自然流下を復元させれば、特に維持復旧費用をかけずに諸問題を解決できる可能性が高い。ある調査によれば無足場アンカー工法で施工するとしたら”現在14m級ダムに6億とされる費用”が半額以下で施工可能とされている(ダムの貯砂量を抑止斜面土砂量と換算して対象面積を割り出し施工費対比)。また、満砂対策の結果として複数ダムの建設が必要であるなら、その数倍の費用減が見込め、更に恒久的に機能は有効である。</p>



### 具体的手法

1. 現状の問題を解決する必要があるので削孔機材の搬入を行う作業用モノレールにより斜面地盤の保水力と根茎の成育を阻害している膨大な倒木を排泄します
2. 無足場アンカー工法はワイヤーにより吊下げてアンカー打設を行える新工法なので、樹木を縫って施工できる。樹木を林業の粗植管理に沿って計画的に伐採し、樹木根茎の土砂呪縛力を補助し自生(土壌硬度10mm~25mm)できるようにアンカーとワイヤーネット工法等と併用して斜面地盤を固結させ、根茎の呪縛力と同等以上の斜面安定力を平面的に実現させる。
3. 上流部の危険落盤斜面は、周辺斜面の水みちでもあるので、地盤だけではなく水処理も同時にして斜面の貯水を計画的に河川に排出する構造とする事で危険斜面の安定と貯水処理が出来て治山に有効的な力となる
4. 上流部の安定が図れれば、土石の蓄積が減り、通常的な微々たる排泄により有事の際の下流への土石災害は少なくなり、自然環境も復旧工事なしに復活できる。
5. 地滑りの85%は深さ2.5mまでで発生しており、通常の一般的なレキ質土斜面と仮定しても削孔径90mm削孔長5~6m程度の二重管施工で抑止できるものと思われる。無足場アンカー工法は削孔径90mm、削孔長1.5m二重管削孔を施工できるので問題なく対応できる
6. 国土交通省NETISなど無足場アンカー工法の実力は短期間で各方面に認められているので、実績も多く即時対応できる環境にある

## 2) 新たな評価軸の具体的提案について

待ち受けて塞き止めるダム抑止工から問題となる発生源を直接安定させ危険要素を無くする斜面抑止工に移行する。同時に地滑り・がけ崩れ・土石流の原因となる山野の貯水機能を復元する方法へ移行する。

### 被害軽減効果／〔経済(資産)、人命、社会機能〕

土石流においては、土石の堆積を防ぐ事が重要であり、崩れた斜面の修繕はもとより、踏跡調査等により危険地形による判断・水みちの有無・上部亀裂の有無・地場経歴などの予防治山的な判断が施工優先箇所となり抑止効果に影響する。

土石の堆積が少なくなれば途中の塞き止め氾濫がなくなり、水比率の高い河川流下水となるので氾濫が少なくなり人命・社会機能への影響は少なくなると思われる

### コスト／維持管理含む

無足場アンカー工法のようなワイヤー吊りアンカー工法で高所施工するとしたら”現在14m級ダムに6億とされる費用”が半額以下で施工可能とされている(ダムの貯砂量を抑止斜面土砂量と換算して対象面積を割り出し施工費対比)

維持管理としても施工時に植生した根茎がアンカー施工による固結斜面により正常に土砂の呪縛帯を構成するので施工時より地盤は年々強固になっている。滑りが発生して抑止し一部すべりが見られるところにおいてもアンカーの増し打ち等により補強がかけられる。

### 地域社会・環境への影響

土石を塞き止めるダムでは、ミネラル分などの養分や砂利などの建設資源の不足・海においては供給砂の不足による侵食・護岸工事などの影響が見られていたが、山から海への自然状態に近づける事で自然復旧機能が働き時間経過による改善がみられる

### 利水事業への影響

水ダムにおいては、周辺の斜面崩壊による水位の上昇や貯水量等の影響が考えられるが、当工法は、事前の調査による原因抑止である斜面崩壊抑止により突発的な事故は少ない

### 実現性

既に国・地方自治体の公共工事において多数施工しており、高所においても実績が豊富なので問題は無いと思われる

### 達成できる安全度

削孔機械は1本でも十分なワイヤーで複数接続によって結束され、作業員もロープ足場で直接接続されているので労災事故で最も多い落下・墜落事故が起きにくい工法であり、安全意識も統一した安全マニュアルにより一元化されている

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	[REDACTED]
②住所	[REDACTED]
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]
④職業	公務員
⑤年齢	58歳
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文の場合は、併せてその内容の要旨(1,000字以内)を添付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について 「水源かん養特定地区に指定」</p> <p>1. 苗木と植樹 牛乳パックのリサイクルどんぐりの苗木づくり、自生種のどんぐりを自分で採取し自分で牛乳パックに蒔きます、(右どんぐりを蒔いて3ヵ月)・(左一年3ヵ月)のもので、このどんぐりパックの凄いところは、一、二年までは、パックがしっかりしていて持ち運びしやすく、植樹場所が比較的土の少ない場所でも成長して四、五年でパックは風化してしまいます。</p> <p>2. 既存の自然を生かしたプレイパーク、春夏秋冬それぞれの自然体験、花見、ほたる鑑賞、魚釣り、ドングリ狩り、など季節ごとに楽しめる、ビオトープとして、水辺、どろんこ、幼児それぞれ体験者に応じた施設として又指導者には地域の人材の育成やインストラクター養成など。</p> <p>3. 農業 田畑には、治水作用があり昔から受け継がれてきた山林や田畑の持分相当の補助制度があれば、治水は守れる。農業に取り組みたい方やその指導は経験豊富な地域の人々があたり、無農薬のアイガモのお米など、有機農法で安全安心の作物作りを地域の力である。</p> <p>4. 住まい 水源かん養に取り組みたいという方には、家作りから指導が必要と考えます、植林の伐採から指導が必要です、非常に危険ですが、森林組合や大工さんの指導等地場産業にもなります。</p> <p>5. 観光 自然体験やプレイパークなど就学旅行や家族旅行などの拠点として。</p> <p>6. 水道水について 切目川は35kmの流域ですが海岸より3km上流域(高垣地区)より印南地区へ送水可能と思われれます。</p> <p>7. 環境教育養成場所として 里山は、日本の原風景として又環境教育や、地域の多様な主体がネットワークに取り組みCO2削減にもな</p>



る。

## 2) 新たな評価軸の具体的提案について

落ち葉や植物が土に解け腐葉土になると、フミン酸・フルボ酸と言う酸になります、この酸が流域の鉄分を溶かし、川の流れとなって田畑や流域のすべての生き物の源となり海までそそがれます、ところがコンクリートにより分断されると、フミン酸・フルボ酸が堰き止められダム湖に沈殿して、ダムより下流へ運ばれません、又、杉やヒノキなど植林が多い流域ではこの作用が少なく、農業や海の磯やけの影響があるらしい。昔からの主産業である、林業、農業、漁業には、治水作用があり永遠と引き継がれてきた第1次産業の所得が低いため、治水を保全できない状況にあります所得の安定（給料）があれば治水の保全や創出につながる。植林を伐採して利用し自生種を植樹することで、森林の土壌はスポンジのような性質をもち、この腐葉土のスポンジが、一センチ出来るのに百年の歳月が必要だそうです、切目川流域でも、私たち一人ひとりが水源の保全について関心をもち、水源を保全し創出していくため、里山を活用した「水源かん養地区」として、地域の人々それぞれの経験を生かした、里山再生整備、自然とのふれあいや冒険体験の場を手作りして、少子高齢化、都市化が進む中、地域の多様な主体が参加して、国有林や植林の伐採により木材の活用と、跡地への植樹場利用など公的補助を行えばダムの公共事業的側面を代用でき治水、利水、環境保全、農業振興に加え木材利用にもつながり生物多様性保全にもなる。

上記のような考えから、切目川流域を「特定地域に指定」地域の既存のものすべてを生かした、里作りを提案します。

(別添：意見提出様式)

国土交通省河川局河川計画課

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議事務局 宛

## 今後の治水対策のあり方に関する意見

①氏名(フリガナ)	
②住所	
③電話番号又は メールアドレス	
④職業	会社経営
⑤年齢	45
⑥性別	男
⑦御意見 (御意見が長文 の場合は、併せて その内容の要旨(1 ,000字以内)を添 付してください。)	<p>1) 幅広い治水対策案の具体的提案について</p> <p>①治水対策基金設立</p> <p>「原資」目的税、森林環境税のような税金を徴収する。 分担金、区画整理事業・ほ場整備事業など流出量を改変する事業に治水分担を求める。</p> <p>「使途」氾濫域内住宅の耐浸水化に助成する。 1階部を駐車スペースなどの非居住スペースとする。 宅地を盛り土する。など</p> <p>②他事業との連携</p> <p>流域対策は河川区域外で行われるため、河川法による事業が出来ないので、他の事業と連携して進める。</p> <p>「対策」道路改良時に盛り土して、二線堤、輪中堤を兼用する。 道路排水、農業排水に浸透性水路を使用する。または、水路の設置を行わない。</p> <p>③地域コミュニティ強化(ソフト対策支援)</p> <p>水防団・消防団への入団義務化、もしくは減税、免税などのインセンティブを付与する。</p> <p>④小流域間でのトレードシステムを構築(流域連合体)</p> <p>温暖化対策と同様に小流域毎に流出量削減目標を設定する。対策は様々な方法を各流域の特性に合わせて各地方が行う。また、目標達成が容易な流域、困難な流域の各流域間で助成金・補助金のトレード行い、流域全体の目標を達成する。</p> <p style="text-align: right;">※流域連合体＝市町村単位の連合組織</p> <p>2) 新たな評価軸の具体的提案について</p> <p>評価は小流域毎とする。</p> <p>①洪水流出量削減対策(貯留、浸透、遊水地、氾濫許容地)を削減目標達成度として評価する。</p> <p>②流域内被災対策として、災害時の生命を守る対策は、ハザードマップ、コミュニティ強化、土地利用規制などソフト対策と輪中堤、二線堤などのハード対策を随時行う。ハード対策は他事業との連携が鍵となるが、財政面・住民との対話によって整備順位を決定する。</p> <p>③小流域間でのトレードシステムによって、人口密集地から過疎地に資本が流入すれば、地方経済が活性化する。</p>

## 治水対策問題点

生命・財産を守るという治水目的において、生存権を侵さない対策（公平性・平等性）という観点から、下流域の住民を守るために上流域の住民が犠牲になる対策では合意をえることは難しい。これは、ダム・遊水地・氾濫許容地において同じような課題となる。

### 問題1 住宅浸水対策（長期間）

個別住宅の浸水対策は新築・立て替え時に行うことになるだろうが、全世帯の対策が完了するには相当の期間を要する。ただし、この時間的問題はダム建設においても同様である。

住宅密集地では、個別住宅から集合住宅への誘導を行う。税金面での優遇、新規開発規制など。

### 問題2 他事業連携（公平性確保）

上流部において耕作地を氾濫許容地とするには、被災時の補償を確保（災害保険等）しなければならない。また、二線堤整備と道路事業を抱き合わせて行うなどの地域の利便性を向上させる施策も必要であろう。

### 問題3 負担金制度（平等性確保）

区画整理事業や道路整備、ほ場整備など流域内における排水路整備は洪水時ピーク流量を上げることになる。このような、事業では地域の利便性が増すことにより下流域での危険度が増加することになるので、治水対策分担金を求めるようにする。ただし、事業区域内で宅地内浸透施設や耕作地内での雨水処理を行っている場合には、負担金を免除する。

### 問題4 持続性・経済性確保

持続可能な社会構築の観点から生態系への影響を最小限とする必要がある。流下断面を拡大する場合でも、高水敷を掘削し川のダイナミズムを増加させる方向とすべきである。高水敷掘削では最低河床は下がらないため、取水施設の改修は少なくすむのでコスト的にも有利となる。

一方、河床掘削では生態系へのダメージが大きくなるほか、取水施設を上流に移設するなどの改修が必要となり、膨大な費用が発生する。

また、堤防の嵩上げでは、破堤時の破壊力が増加し危険が増すことになるとともに、橋梁掛け替えにともなう費用が発生し、コスト面での負担が大きい。

差出人: [REDACTED]  
 送信日時: 2010年2月3日水曜日 21:57  
 宛先: chisui@mlit.go.jp  
 件名: 今後の治水対策のあり方に関する意見

- ①氏名 [REDACTED]  
 ②住所 [REDACTED]  
 ③電話番号 [REDACTED]  
 メールアドレス [REDACTED]  
 ④職業 農業  
 ⑤年齢 84歳  
 ⑥性別 男  
 ⑦意見

### 1) 幅広い治水対策案の具体的提案について

地球上の水分は塩水・淡水に大別出来て、人間生存の為に最大利用出来るのは淡水である。

河川・湖沼・地下に自然に存在して、元は雨水から供給される。

蒸発・降雨・流下の循環の中で河川に関係する流下は利水（発電・農業・工業・水道・舟航）に使用される。ただし一旦洪水となった場合には日本に於いては人間生活に多大の被害を発生する可能性が大きい。この被害を事前に除去する事業が治水事業である。

過去に於ける治水事業は日本最大河川の利根川で徳川時代に関宿から銚子への流路変更・江戸川の派川化や濃尾平野に於ける木曾・揖斐・長良三川に加藤清正の治水事業があり築堤・護岸・水制・根固・遊水池・輪中・派川の大事業が施工されていた。

治水事業の効果を上げる為の工事には流下能力の増大として浚渫・掘削が施工され水衝部の固定・強化をはじめ水源地に於いては砂防・山腹・溪流工事が行われ河川では堤防高増大・堤体断面積の増大と堤外法面の浸透度低減・堤内法先での浸透水の水抜工がある。

治水効果を見出すためには水源から流末までに於いて水源山地部に森林を育成し保水能力を増大する山腹工・流路工・堰堤工を施工し土石砂礫の流出を防止する。又中流部には貯留ダムを検討する必要がある。流域内には国交省所轄範囲として建造物の附帯貯水施設を建造物所有者が屋上か地表に設置する事を義務付け更にその施設からの排水管口径を制限して河川への流出率を低くする。氾濫地区には必要性を十分検討して副堤（二番堤）や輪中堤を築造して氾濫による被害を小範囲に留める。又流出率を下げる為に道路や広場の舗装を透水性のある材料を使用させるほか屋外大駐車場・文科省所管の大運動場や運動公園（グラウンド）を遊水池として利用する構造とする。河道では引堤・霞堤・遊水池（池）縦断勾配の緩和（流速低減）浚渫・掘削・立木伐採（流下断面拡大）・水衝部固定（水制・護岸・根固めによる堤防保護）・合流調整工・派川開削を実施する。

先輩の実施した治水対策工事には、

- i) 利根川水系 引堤・遊水池・浚渫
- ii) 木曾川水系 合流調整工
- iii) 菊川 河道堰
- iv) 富士川 掘削・根固・水制

がある

[REDACTED] 両先生は富士川治水工事を実施する中で昭和10年出水の前後で其の工法を大きく変えた。以前は合掌杵水制と根固による流下断面の固定化以後はコンクリート構・三叉付コンクリートブロック・三角構による水衝部固定である。

治水事業は国交省河川局が主体で実施されるものであるが省内で道路局・住宅局との調整を行うほか農水省・文科省とも協議して古来からの治水対策事業の成功例、不十分であった点を十分検証してより有効な対策の本案・控案・三次案まで出してそれが流域の安全度の向上に報いるものでなければならない。

### 2) 新たな評価軸の具体的提案について

其の治水対策事業を実施するには関連する事項を事前に十分検証しなければならないがそれは氾濫域の資産額・人口（就労人口）・行財政機構をはじめ交通機関・重工業・電気・ガス・石油・上水道・原子力施設等への影響のほか事業実施期間の長短・コスト・関連事業の必要性・民意の賛同等も含めて治水効果にウエイトを置いた評価値を羅列して、万一の被害額まで算出して比較検証する必要がある。

ダム事業衰退後の治水事業としてはダム屋として頑張ってダムの立案・計画・調査・設計・施工・管理に携わって来られた [REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED] さん方の実績や [REDACTED] さんの豊かな知識の披露も受けてそれ等専門家の意見を十分汲み入れて関東北部の利根川水系・鬼怒川水系のダムそのものの有効性と現在の治水効果を評価し未完成ダムの事業遂行の決

断に対し政治的で無く技術的に学識あるダム担当者の意見発表検討の上で採否を決定する事を強く期待します。

各河川にはその河川夫々の特性があり流域を形成する地質・地形・岩質・植生・勾配・気象・降雪・土地利用・都市化・水田等が其の河川の流出形態に非常に大きな影響を及ぼすので過去からの推移を含め今後の状態を十分解析してその河川の評価・治水対策を方向付ける必要がある。



国土交通省河川局河川計画課 今後の治水対策の在り方に関する有識者会議事務局 御中  
 今後の治水対策の在り方に関する「新たな評価軸の具体的提案」書

氏名 (ふりがな)

住所

電話番号 (午後4時以降) E-メールアドレス

携帯 携帯番号は公開不可

職業 自営業 年齢 48歳 性別 男

新たな評価軸の具体的提案 財政と環境などへの影響について

① 調査事務所などの経費の無駄について

私が住んでいる由利本荘市には国土交通省東北地方整備局「鳥海ダム調査事務所」があります。そこには10人以上の職員がいて掃除のおばさんも働いています。測量や環境評価などは外注ですからそんなに人がいなくてもいいと思います。20年を超す、その人件費や事務所費用はダム建設費に含まれていません。

② 建設費用が予算の数倍～数十倍になっている例があること(予算内で収まったことがないこと)

建設費が当初予算の数倍～数十倍になっても建設中止にならないのは不思議です。(予算とはいったい何を根拠に出されているのか疑問です)

③ ダム建設による周辺工事が建設費用に含まれていない

周辺整備事業が数十億～百億円かかってもそれがダム建設費用に計上されていません。私たち住民は作ってくれてありがたいと思いますが、私たちの税金が必要でないことに費消されている実態があります。数字マジックのようにダム建設の名のもと数百億円が消えていた実態があったこと。

④ 堆砂や排砂、生物多様性との見地からの環境評価がないこと

ダムはある意味、大きな砂防ダムのようなものです。国土交通省も認めています、その膨大な堆砂や流木など腐れ水や湖底の泥が腐敗することは広く知られています。そこで大雨などの放流に乗じて排砂しているダムでは河川はもちろん海の汚染が問題です。このような問題は今までのダム建設の環境評価には当てはまらなく全く行われてきませんでした。

今年のCOP10では「1950年までに生物多様性を現状以上に豊かにする」と日本は提案します。環境評価あるいは建設促進との考え方からの外部評価による評価はいい加減でずさんでした。本気で現状以上の生物多様性の豊かさを希求すると大きなダムを建設する事はできません。

⑤ 建設費用対効果

国土交通省東北政局が策定した「子吉川水系河川整備計画(大臣管理区間)」があります。これによると河川整備によって洪水・高潮などによる災害の発生は防止できるとあります。鳥海ダム調査事務所が発表していることは環境保護でことごとく違いがあります。鳥海ダム調査事務所では平常時での水位の低下や④のことの発表がありません。

このような事は仮排水トンネル工事中の「成瀬ダム」をはじめとする多くのダムに当てはまると思います。以上のことを評価軸として検証をお願いします。